仏教企画通信
68号
発行日｜令和4年6月1日
発行所｜有限会社 仏教企画
〒252-0116
神奈川県相模原市緑区城山4-2-5
Tel. 042-703-8641
Fax.042-782-5117
発行人｜有限会社 仏教企画代表　藤木隆宣
Email｜fujiki@water.ocn.ne.jp

身近な仏教がひらく他己社会

NPO法人
ものづくり生命文明機構
常任幹事 岸本吉生

私の仏縁

私の仏縁は祖父母と父母のおかげです。明治生まれの祖父は毎朝着物を着て神棚、お地蔵さん、仏塔を拝んでいました。祖母は法華経の朝夕の読経を欠かしませんでした。祖母が亡くなったのは八歳の時でした。大勢の親戚が集まり初七日まで夜通し回向を続け「三途の川を渡って仏さんになったら、おばあちゃんはずっと君を守ってくれる」と聞かされました。その後母が礼拝するようになり「ご先祖を守るのはあなたの仕事になる」と次を託されました。母が亡くなり回向は私の仕事になりました。

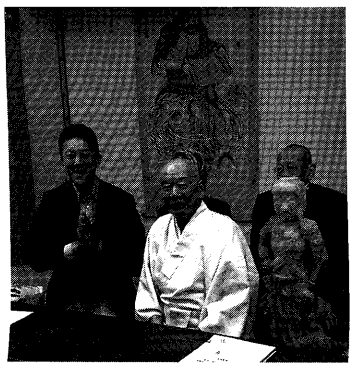
父はインド哲学を京都大学で修めましたが回向に熱心ではありませんでした。大学受験のとき「法律や経済学を学ぶより哲学を学びなさい。一生役に立つ。」とそれだけでした。子どもの頃から政治、法律、倫理、宗教、哲学の関係を知りたいと思っていましたが手がかりを得ないまま大学を卒業しました。空海を学ぼうとしましたがチンプンカンプンなままでした。年齢を重ねるにつれ父の助言にありがたさを感じています。哲学を学びたいという思いがあったから、救済、回向とともに今を生きる智慧が仏教にあると考える自分が生まれたと実感します。

真言宗との出会い

四十三歳のとき、堀江ひとみさんに出会いました。十九歳のお嬢さんを暴力団員に射殺された女性でした。当時、私は警察庁の暴力団対策課に勤務しており、被害者の保護と救済を担当していました。ひとみさんは茅ヶ崎の長福寺のお生まれで高野山高校の卒業生でした。はじめてお会いした日「あなたは、ご縁でこの仕事を与えられたのです。高野山に参詣して般若心経を暗唱してください」と諭され、密教学を高野山大学大学院の通信課程で学ぶようになりました。

最初のお題は今でも覚えています。「般若心経の一般的な理解と空海による理解の違いについて一二〇〇字で述べなさい」というものでした。真言密教が仏教の積み重ねの上に成り立っていることは分かりましたが、独学で通仏教を学ぶことは難しいことでした。正木晃先生の『「空」論』（春秋社、二〇一九年）を読んで、はじめて通仏教のことが分かりはじめた気がします。

中村公隆大阿闍梨


中村公隆大阿闍梨と

独学を始めた頃、森勇介大阪大学教授から「三田の独鈷山鏑射寺に参詣して、山主の中村公隆大阿闍梨のお話を一緒に聞きませんか」と誘っていただきました。爾来十八年、毎年参詣して法話を聞かせていただいております。はじめて参詣した帰りがけ、私たちが見えなくなるまで見送ってくださるお姿のありがたさに自ずと涙が溢れたことを忘れることができません。その日教わった言葉は「慈悲」でした。宇宙、自然、生きとし生けるものとの共感が密教の基礎にあることを知りました。

大阿闍梨にはこれまで多くの事を教わりました。

- いのちの寿命は等しく一三八億年、宇宙の波動に自分を整えれば誰でも良い仕事ができること
- 空海が宇宙科学や量子力学の知見をわかっていて書き記していること
- 身体と口と意識（身口意）を一致させれば宇宙の波動とつながること
- 年月が経って価値が増すものを大切にすること

私の生涯にとって中村山主様からの教えがどれほどの宝になっているか、感謝の言葉が見つかりません。

神社とお寺と修験道

仏教が奈良時代に隆盛になってからも、祖先は神様と仏様を共に敬ってきました。明治以来神仏が分離したままになっていることは残念に思います。

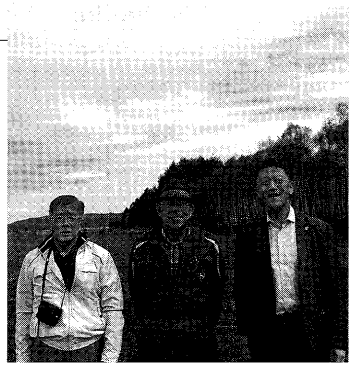
人吉市の青井阿蘇神社は、神仏混淆の姿が今に残る国宝です。役行者が開いた修験道は各地に残り、お寺と神社をつなぐ民衆の営みが継承されています。秩父にある今宮神社は一八〇〇年の歴史があり修験道の聖地でした。塩谷治子宮司は一念発起して役行者祭りを再興し、神仏混淆に尽力されました。治子宮司のご縁で出羽三山でのイベントを開催したとき、出羽三山神社の宮司と修験本宗荒澤寺の住職が同席されるのは明治以来はじめてと伺い、神仏分離の根深さを感じました。和魂と荒魂の二つの顔を持つ神様には、愛に満ちた側面と情け容赦ない振る舞いがあります。頻繁に災害に見舞われる私たちは、古来、和魂に感謝し荒魂に畏敬の念を持って神仏を拝んで来たのでしょう。

霊性に立ち戻る

アメリカ人の科学者Lisa Miller さんが書いた『The Spiritual Child（霊性を持つ子ども）』（Picador Paper 2016）という本があります。子どもの霊性と発達との関係について科学の最新の知見を紹介する貴重な文献です。Miller 博士は、「霊性」とは「自然、神、宇宙など人間を超越したものとの関係性」だと捉えてこの本を書き進めています。博士の提起する科学的知見は次のとおりです。

- 人間は、大いなるものとの縁を希求する霊性の遺伝子を持っている。両親が赤ちゃんに喜びを感じるのは赤ちゃんが霊性を備えているからである。
- 言葉を覚え人間関係を形成すると霊性が希薄になるが、子どもの本能は霊性との縁を結び続けたいと感じている。親はそれを手助けしたほうが良い。
- 霊性との縁は繰り返し結ばれるべきで、成人する前後は特に重要である。
- 霊性との縁を遮断すると抑うつ、非行、暴力といった心の問題が生まれ本人も家族もそれに苦労する。

霊性（Spirituality）と宗教は別の概念です。「宗教（Religion）」という語はキリスト教を取り入れた明治時代の外来語（Religion）です。日本の民衆は、米づくりや冠婚葬祭など霊性を重んじる生活をしてきました。そうしたことを、宗教の教義とは別の次元の霊性として実践してきました。Miller 博士のような科学的知見が研究されていることはありがたいことですし、日本でもその知見が普及することを期待しています。

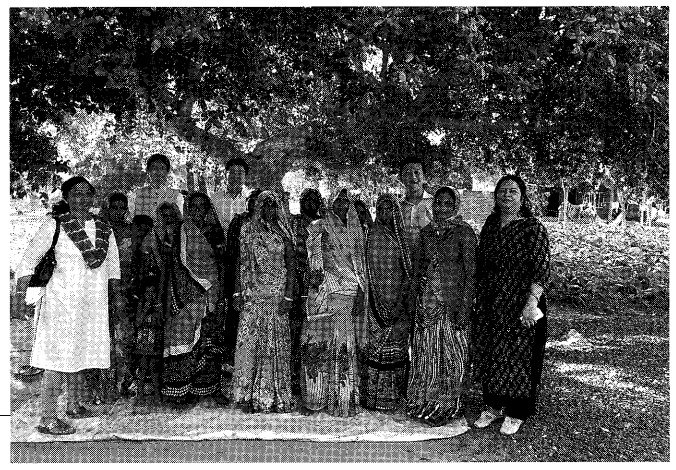

2020年8月　北海道十勝更別町にて小谷広一様（中央）と。150ヘクタールの農地を家族で切り盛りする。

ゼロからイチを生む子どもたち

コンピュータを使う社会は十年前に大きく発展しました。政府や大企業と同じ力で個人が発信する世の中になりました。生まれた時点でインターネットが利用可能であった一九九五年以降に生まれた世代

を、Z世代といいます。Z世代はLINEやTikTokのようなソーシャルネットワークサービス(SNS)に親しみ、好きなことややりたいことを仲間と常時接続して楽しんでいます。関心のあることは瞬時に調べて会得しています。社会課題を解決するビジネスプランのコンテストに参加する高校生の作品は質が高く、その感覚や情熱はおとな顔負けです。

日本もそうですが、経済が発展して成熟した国ではお金の動きも仕事も七〇%以上はサービスです。Z世代は、高齢化社会で税金の使い道がますます問われることや地球を守ることをおとな以上に真剣に考えています。お客様が喜んでお金を支払うサービスが、健康、福祉、教育、環境などに広がることは高齢化のピークを迎える二〇四〇年代に向けて私たちの救いになるでしょう。

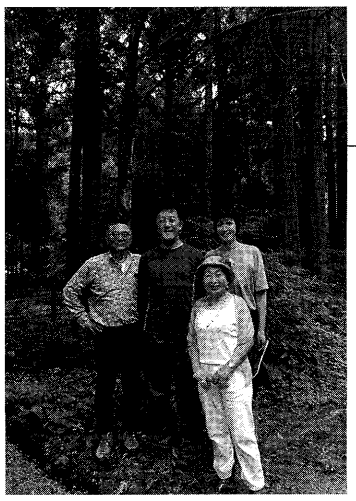


2019年2月　インド・グジャラート州の農村。浄水器と5G携帯が普及し、農村の暮らしが外部と接続され変貌し始めている

私は、こうした子どもたちの成長を応援する中学校・高校教育のあり方を研究開発しています。顧客の求めるものを整える「マーケティング」を中心に自分の天職を見つける「キャリア・デザイン」の授業を構想しています。顧客が喜んでお金を支払うサービスを提供するには、着想から具体化までの「川上のマーケティング」が欠かせません。顧客を出発点に、提供するサービスを着想し、顧客と共に磨いて提供するまでが川上のマーケティング、提供後つつがなく提供し続ける営みが川下のマーケティングです。

愛、倫理、美的感覚を出発点にして学び、助け合い、仕事をするのです。Z世代は、自分が生まれ育った郷土や愛する人の住む場所で、お金を稼ぐためというよりも「世の中の役に立ちたい」と仲間と活躍をするでしょう。

私はいま、「世の中の役に立つ喜び」を根拠づける思想はどのようなものか、その意義を世代を越えて共有できないか、この二つのことを思案しています。釈迦は、輪廻からの解脱を目指しました。龍樹が「空」を唱えてから仏教は変容し、日本では大乗仏教として定着しました。大乗仏教は、生きとし生けるものが皆成仏することを願います(願以此功徳 普及於一切 我等与衆生 皆求成仏道)。この思想は、僧侶はもとより在家が、他人を貪らず極楽浄土の建設に共に邁進しようとするものであり、地球の誰もに広く共感される思想だと思います。僧侶の使命は、宗派の特長を生かしながら一人ひとりに寄り添う法話を説き、衆生の成仏を率先して実践することだと思います。僧侶が身近になることで、人々は仏教を身近に感じ、助け合い、大乗の船が彼岸に渡る航海をつつがなくできるのではないでしょうか。



2018年7月　全国でも有数の林業家、速水林業の速水亨様の森にて

関係性と縁起

内山節(たかし)先生の哲学は、民衆が大切にしてきた仏教を重んじています。生活に根ざした実践の尊さです。内山先生の多くの言葉で私が特に共感するのは「仕事と稼ぎ」「関係性」の二つです。

ひとつの職場で週四〇時間働くというライフスタイルは過去のものとなるでしょう。オンラインで仕事ができる今日、何足もの草鞋を履いて生きていくことが可能になりました。自分が好きなことで世の中の役にたつための仕事をする時間、好きでなくても生計を立てるために稼ぐ時間の双方を組み合わせる世の中に移行していくでしょう。

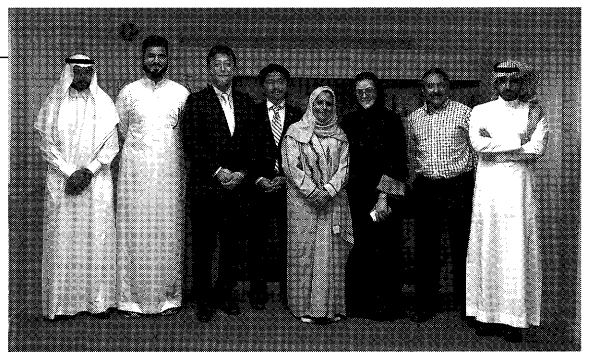
個人と社会が法律で規定されるのが現代社会ですが、法律に触れない人間関係のもつれはたくさんあります。人間関係は心身の健康を脅かす最大の要因の一つですが、法律や医療では解決できません。「苦楽に執着しない」「無私無我を拠りどころにする」という大乗仏教の教えは多くの人の役に立つでしょう。

イタリアの物理学者ロヴェッリ博士は、自然科学の知見として「自然を理解したければ孤立した対象物ではなく相互作用に注目する。宇宙は絶えず相互に作用する網であり対象物は網の結び目だ。」と述べています。不変の存在はない。まさに諸行無常です。数学や物理学の理論体系は観念上のものであり、宇宙や自然界を近似することはできても事実ではありません。他人がいるから自分がいる。子どもがいるから父であり、同僚がいるから同僚なのです。内山哲学は、私たちが縁起によって生かされていることにはっきりと気づかせてくれます。

仏教がひらく他己社会

僧侶と在家は多くの点で仏教との関係性が異なりますが、その点が過剰に意識されたり無視されていると思います。ものの本を読んで出てくるのは僧侶や教祖であり、その主張を在家の私たちがそのまま活かすことはできません。在家は、先祖回向、現世利益という形で神仏とお付き合いすることがほとんどですが、元旦から大晦日までの日常、誕生から死去までの冠婚葬祭全般に神仏とのお付き合いがあります。神様仏様に生かされているという思想や文化がわが国に根ざしてきたからだと思います。

空海は、鎮護国家を成し遂げることを目指し教育や公共事業に力を入れました。道元は、荒れ狂う武家社会に苦しむ民衆を救うために、僧侶こそ率先垂範して無私になるよう善導されました。時代は異なりますが、お二人とも衆生の成仏を目指されたのだと思います。僧侶には、そのことを哲学し、かつ、実践してきた歴史があります。空海、最澄、法然、親鸞、道元、日蓮をはじめ数えきれない僧侶が、実践に基づく言葉を残されたのだと思います。事理一致は容易(たやす)いことではありませんが、便利な生活をしているからこそ、修行や実践の価値が見直されていくでしょう。



2017年4月　サウジアラビアの港町ジェッダ市にて。女性起業家を支援する皆さんと。支援組織を立ち上げたソファーナ・ダーランさん(右から3人目)は、サウジアラビア初の女性弁護士で中小企業庁初代副長官を務めた方。

宇宙や自然の営みの上に成り立つ私たちは、神仏の縁起によってつつがなく生きられるのです。これからは、「世の中の役に立つ喜び」を基盤に、地球に感謝し、衆生が助け合い、喜びと悲しみを分かち合う時代だと思います。流行し始めている「誰ひとり取り残さない」という理念も同じ文脈だと思います。他人と自分を比べる社会から、他人と自分、衆生と人類は同じ価値を持っていると考える社会、「他己(たこ)社会」に移行していくのだと思います。

神様仏様は、そうした営みに大きな役割を果たすと信じます。人々の元気や使命感の根底にある霊性を神様仏様が確かなものにするからです。



プロフィール
岸本吉生(きしもと よしお)
NPO法人ものづくり生命文明機構常任幹事。物質文明の先にある生命文明の思想、営みを研究している。1962年神戸市生まれ、東京大学法学部、コロンビア大学国際関係大学院卒業。1985年通商産業省入省。中小企業基盤整備機構シニアリサーチャーとして、離島半島農山漁村を抱える市町村こそ自然、文化、価値創造で社会に貢献し、地元の活力も増すというテーマで全国各地を訪問している。金融ファクシミリ新聞に技術とローカルの二つの視点から日本の将来を考える「ホモデウスと日本」を連載中。